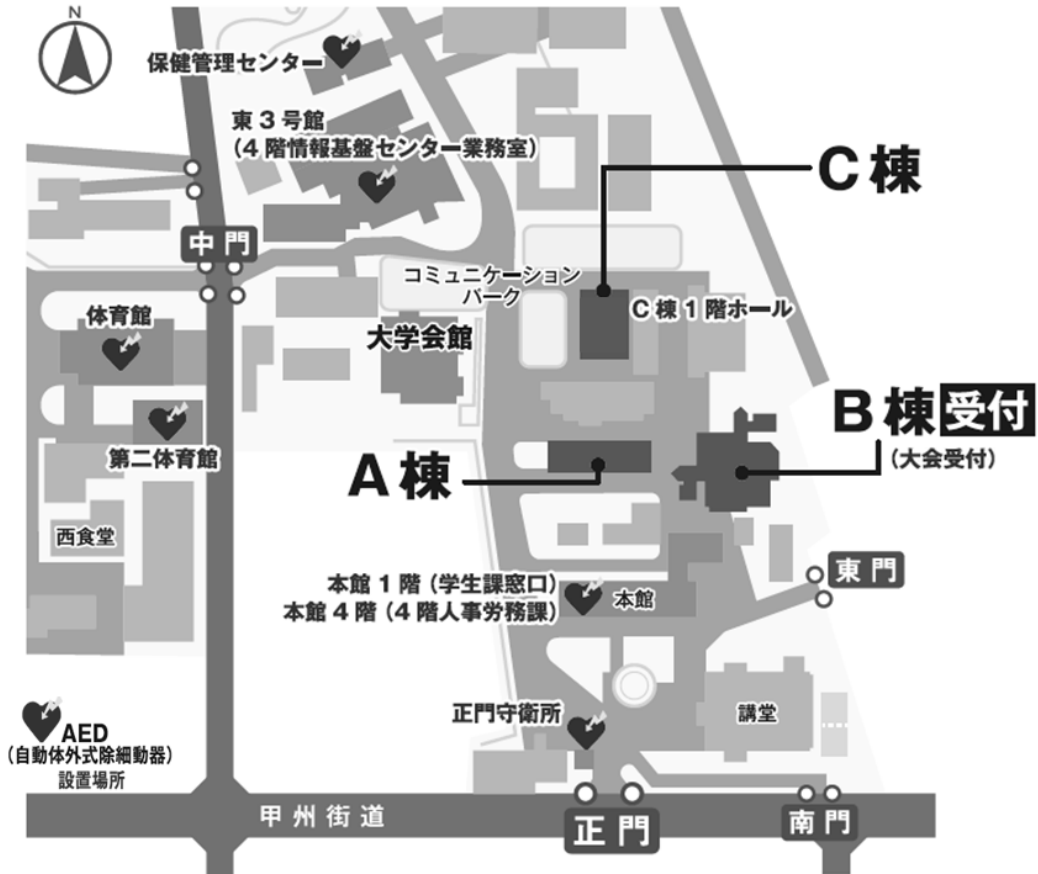
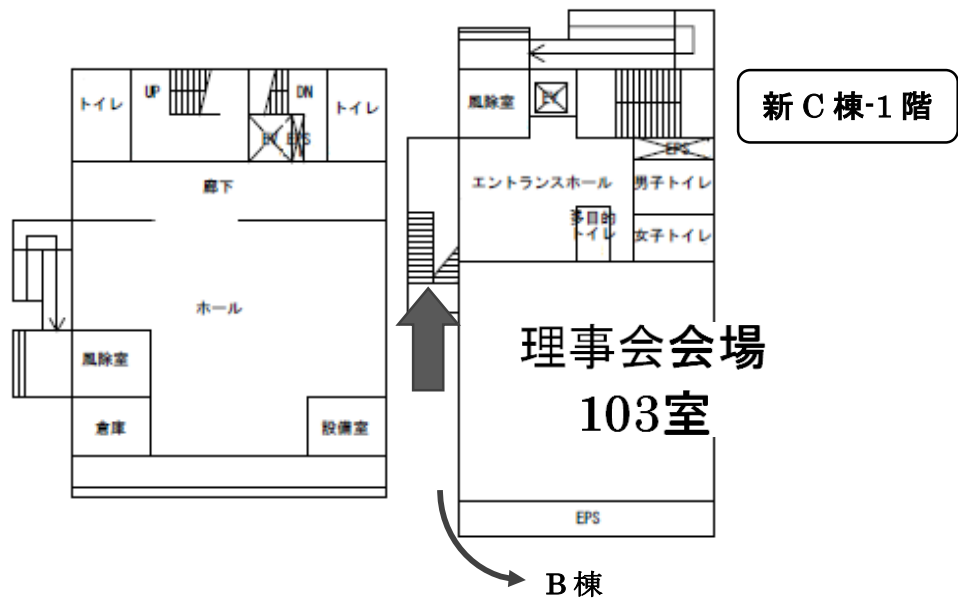


会場案内図

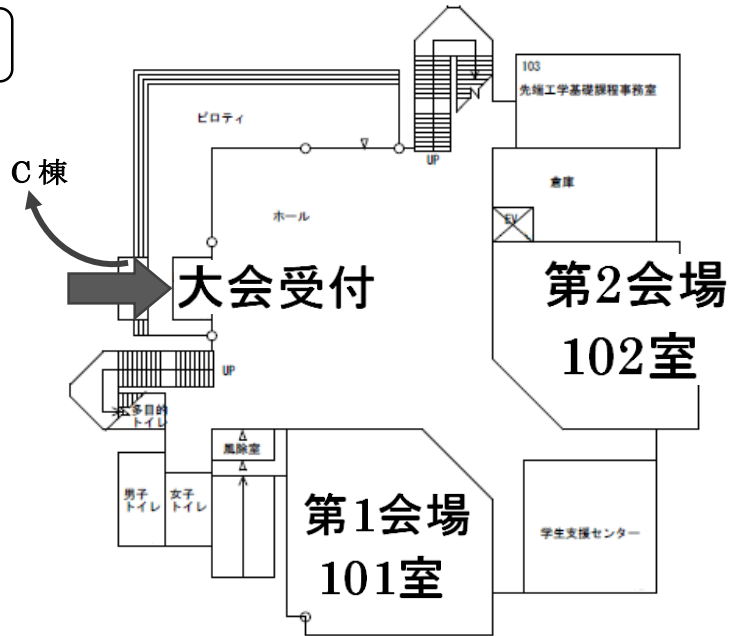


C棟



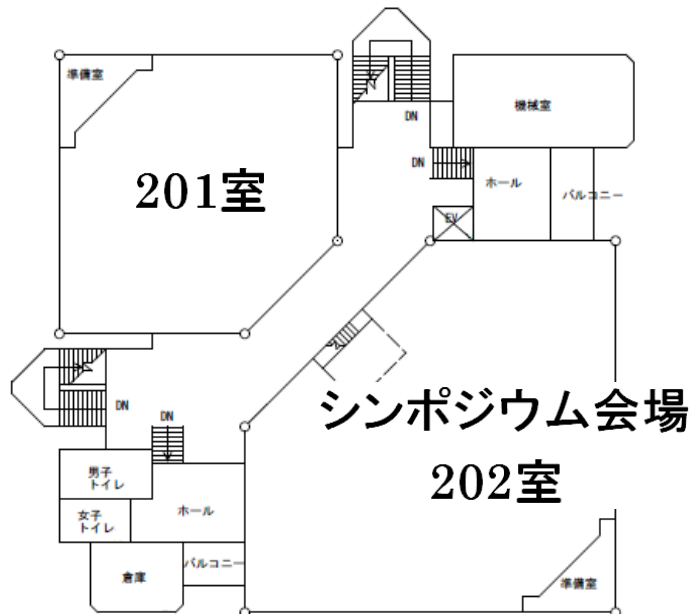
B棟

B棟-1階



※1日目大会本部 102 教室、
2日目大会本部 201 教室

B棟-2階



大会日程

9月8日(木)

時間	シンポジウム会場 (B202)
9:00 -	受付
10:30 - 12:00	シンポジウム1 「e テスティング」
12:00 - 13:30	昼休み
13:30 - 14:15	総会
14:30 - 16:00	基調講演
16:20 - 17:50	シンポジウム2 「入試改革」
18:00 -	懇親会

9月9日(金)

時間	第1会場 (B101)	第2会場 (B102)
8:00	受付	
9:00 - 10:20	一般セッション1 「大学入試」	一般セッション2 「ジェネリックスキル」
10:30 - 11:50	一般セッション3 「記述式・論述式テスト」	一般セッション4 「初年次教育」
11:50 - 13:00	昼休み	
13:00 - 14:40	企画セッション1 「e ポートフォリオ」	一般セッション5 「テスト統計」
14:50 - 16:20	企画セッション2 「21世紀スキル」	一般セッション6 「問題・項目作成」
16:30 - 18:30	企画セッション3 「認知診断モデル」	一般セッション7 「e テスティング」

公開シンポジウム 1 :

大規模型 e テスティングの運用モデルの確立を目指して

9 月 8 日(木) 10:30 - 12:00 シンポジウム会場 (B202)

企画：植野 真臣 (電気通信大学)

近年、テストの国際標準 ISO 規格(ISO/IEC 2007)で定義される e テスティングが世界的に普及しつつある。しかし、同一テストの測定精度の等質性を保証しなければならない e テスティングでは、大規模なアイテムバンク (テスト項目のデータベース) と高度なコンピュータ技術が必要であり、その運用方法については未だ確立されていない。また、アイテムバンク方式が普及している西洋とは違い、日本ではこれからそれを構築する組織が多い。そのため、容易に導入可能な e テスティング・システムの開発とアイテムバンクの継続的構築も考慮した運営モデルの開発が急務である。本シンポジウムでは、すでに大規模型 e テスティングの実施を進めてきた方々にそれぞれの組織での運用方法についてご発表いただき、大規模型 e テスティングの運用モデルを明らかにしていく。

1. 国家試験『IT パスポート試験』における e テスティング…………… 22
谷澤 昭紀 (独立行政法人 情報処理推進機構 IPA)
本多 康弘 (独立行政法人 情報処理推進機構 IPA)
2. GTEC CBT の運用を支える ICT と測定理論…………… 26
込山 智之 (一般財団法人進学基準研究機構 CEES)
野澤 雄樹 (ベネッセ教育総合研究所)
3. 大規模英語テストにおけるアイテムプール拡張と管理・運用について…………… 28
仲村 圭太 (公益財団法人 日本英語検定協会)
4. 医療系大学間共用試験の特色…………… 30
仁田 善雄、齋藤 宣彦、石田 達樹、島谷 一芳、江藤 一洋
(公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構)

基調講演：

認知科学を基礎とした新たなアセスメント研究動向

9月8日(木) 14:30 - 16:00 シンポジウム会場 (B202)

認知科学にもとづいた、学習の、学習のための、学習としてのアセスメント

— ETSによる研究イニシアチブ 32

講演：ETS 首席研究員 Paul Deane 博士

この基調講演では、ETS 首席研究員の Paul Deane 博士をお招きし、氏が携わる CBAL (Cognitively Based Assessment of, for, and as Learning) イニシアチブを通して、認知科学を基礎とした次世代型のアセスメントについてお話いただく。

CBAL イニシアチブは、米国における現行の K-12 のアセスメントを、「学習への貢献」を強く意識した次世代型アセスメント・システムへと変革するための研究プロジェクトである。その特徴は三つある。一つ目は、社会的文脈における学習と習熟を考慮した言語の「認知モデル」を構築していることである。認知モデルに基づいてアセスメントを設計し、評価を行うことで、学習の到達状況に即したきめ細かなフィードバック、指導が可能になることが期待される。二つ目は、相互に関連づけられた形成的評価と総括的評価を年間にわたって複数回行う「アセスメント・システム」を構想していることである。三つ目は、コンピュータ上での試験実施や機械採点など、最新の技術を積極的に活用する点である。

本講演では、認知科学に基づくフレームワークを、どのようにして具体的なアセスメントタスクに落とし込み、測定し、評価するのかといった CBAL の具体的な手法について、これまでの研究成果を交えながら紹介していただく予定である。

司会：加藤 健太郎 (ベネッセ教育総合研究所)

備考：同時通訳有り

公開シンポジウム 2 :

大学入試改革の概要と課題

9月8日(木) 16:20 – 17:50 シンポジウム会場 (B202)

高大接続システム改革と「大学入学希望者テスト」の導入 36

講演：鈴木 寛

(東京大学公共政策大学院教授 兼 慶應義塾大学政策・メディア研究科教授)

指定討論者

徳永 健伸 (東京工業大学)

石岡 恒憲 (大学入試センター)

一般セッション1：大学入試

9月9日（金）9:00 – 10:20 第1会場（B101）

座長：橋本 貴充（独立行政法人大学入試センター）

1. 国立大学における個別学力試験の解答形式に関する研究（1）…………… 40

- 宮本 友弘（東北大学）
- 庄司 強（東北大学）
- 田中 光晴（東北大学）
- 石上 正敏（東北大学）
- 倉元 直樹（東北大学）

2. 国立大学における個別学力試験の解答形式に関する研究（2）…………… 42

- 庄司 強（東北大学）
- 宮本 友弘（東北大学）
- 田中 光晴（東北大学）
- 石上 正敏（東北大学）
- 倉元 直樹（東北大学）

3. センター試験の成績未利用行動の分析（1）－理科②の成績未利用者の分析－… 44

- 橋本 貴充（独立行政法人 大学入試センター）
- 内田 照久（独立行政法人 大学入試センター）
- 鈴木 規夫（独立行政法人 大学入試センター）

4. 大学・大学院入試に向けた英語スピーキングテストの尺度化事例
－受験者特性と評価者属性を考慮したモデルによる検討－…………… 48

- 光永 悠彦（島根大学）
- 神澤 克徳（京都工芸繊維大学）
- 坪田 康（京都工芸繊維大学）
- 羽藤 由美（京都工芸繊維大学）

一般セッション2：ジェネリックスキル

9月9日（金）9:00 – 10:20 第2会場（B102）

座長：木村 哲夫（新潟青陵大学）

1. 論述力を測定する混合フォーマットテスト開発の試み …………… 52

- 野澤 雄樹（ベネッセ教育総合研究所）
- 伊藤 素江（ベネッセ教育総合研究所）
- 須永 正巳（ベネッセ教育総合研究所）
- 堂下 雄輝（ベネッセ教育総合研究所）
- 村田 維沙（ベネッセ教育総合研究所）

2. 「実社会・実生活に生きる多様な力を測るテスト」の多面的な分析 …………… 56

- 岡村 彩音（岡山大学大学院教育学研究科）
- 志水 黎（岡山大学大学院教育学研究科）
- 山田 剛史（岡山大学大学院教育学研究科）
- 長谷川 康代（(株)ベネッセコーポレーション）
- 牧野 直道（(株)ベネッセコーポレーション）
- 岡下 博美（(株)ベネッセコーポレーション）

3. クリティカルシンキングの適応型テストの尺度開発 …………… 58

- 若山 昇（帝京大学/CRET）
- 宮澤 芳光（東京学芸大学）
- 梶谷 真司（東京大学）
- 植野 真臣（電気通信大学）

一般セッション3：記述式・論述式テスト

9月9日（金）10:30 – 11:50 第1会場（B101）

座長：倉元 直樹（東北大学）

1. 評価者と課題の多様な特性を考慮した項目反応モデル 62
○宇都 雅輝（電気通信大学大学院情報理工学研究科）
植野 真臣（電気通信大学大学院情報理工学研究科）
2. ピアアセスメントの精度を最適化する評価者選択手法 66
○Nguyen Duc Thien（電気通信大学大学院情報理工学研究科）
宇都雅輝（電気通信大学大学院情報理工学研究科）
植野真臣（電気通信大学大学院情報理工学研究科）
3. IRTによる理系記述式テストデータの分析 (2)
——記述式テストIRT化検討の背景—— 70
○倉元 直樹（東北大学）
泉 毅（教育測定研究所）
4. IRTによる理系記述式テストデータの分析 (3)
——項目パラメタ・能力パラメタによるIRT適用課題の導出—— 72
○泉 毅（教育測定研究所）
倉元 直樹（東北大学）

一般セッション4：初年次教育

9月9日（金）10:30 – 11:50 第2会場（B102）

座長：大森 拓哉（多摩大学経営情報学部）

1. オンライン英会話グループ学習を用いた英語学習態度改善の取り組みと測定・ 76

森 一将（文教大学経営学部）
遠山 道子（文教大学経営学部）
新谷 真由（東京電機大学理工学部共通教育群）
大森 拓哉（多摩大学経営情報学部）

2. 工学系大学の数学基礎教育における e テスティングの取り組み…………… 78

○亀田 真澄（山陽小野田市立山口東京理科大学）
宇田川 暢（山口県立大学）

3. 大学1年生1000人を対象とした毎週オンラインIRTテストシステム
とその運用…………… 82

○廣瀬 英雄（広島工業大学）

4. Co-creating ルーブリックの自己制御学習および自己評価力への影響分析…… 86

○山本 美紀（電気通信大学）
宇都 雅輝（電気通信大学）
西山 悠（電気通信大学）
川野 秀一（電気通信大学）
植野 真臣（電気通信大学）

企画セッション1：eポートフォリオ

9月9日（金）13:00 – 14:40 第1会場（B101）

企画：森本 康彦（東京学芸大学）

【総説】

1. eポートフォリオ／学習記録データを活用したアクティブ・ラーニング
の学習評価 90
森本 康彦（東京学芸大学）

【初等中等教育セッション】

2. 汎用的な資質・能力を育成するためのパフォーマンス評価 92
鄭 谷心（東京学芸大学）
3. 項目反応理論に基づくアクティブ・ラーニングの学習評価 96
宮澤 芳光（東京学芸大学）

【高等教育セッション】

4. 大学の授業におけるeポートフォリオを活用した学習評価 98
田中 洋一（仁愛女子短期大学）
5. eポートフォリオを用いた大学教育の質保証 100
宮崎 誠（畿央大学）

【パネルディスカッション】

登壇者全員によるパネルディスカッションを行う。

一般セッション5：テスト統計

9月9日（金）13:00 – 14:40 第2会場（B102）

座長：柴山 直（東北大学大学院教育学研究科）

1. 複数国において実施された性格特性検査における因子構造 …………… 102
 - 酒匂 志野（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）
 - 坂本 佑太朗（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）
 - 今城 志保（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）
 - 分寺 杏介（東京大学大学院）

2. 複数国において実施された性格特性検査における DIF の検出 …………… 106
 - 坂本 佑太朗（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）
 - 酒匂 志野（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）
 - 今城 志保（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）

3. 連続変数を含む補償的認知診断モデルの開発 …………… 108
 - 山口 一大（東京大学大学院教育学研究科）
 - 星野 崇宏（慶應義塾大学大学院経済学研究科）

4. カテゴリ項目尺度における希薄化の修正について …………… 112
 - 岡本 安晴（日本女子大学人間社会学部心理学科）

5. 対応づけ得点の信頼性係数について …………… 116
 - 佐藤 喜一（新潟大学教育戦略統括室）
 - 柴山 直（東北大学大学院教育学研究科）

企画セッション 2 :

21 世紀型スキルの学習環境と評価のありかた

9 月 9 日 (金) 14:50 – 16:20 第 1 会場 (B101)

企画・司会 : 益川 弘如 (静岡大学)

1. 21 世紀型スキルが喚起する学習評価のあり方に関する議論 120
 白水 始 (東京大学)
2. CoREF における評価の取り組み 121
 齊藤 萌木 (東京大学)
3. 資質・能力を育む学習環境における縦断的評価 121
 益川 弘如 (静岡大学)

指定討論者 : 南風原 朝和 (東京大学)

一般セッション6：問題・項目作成

9月9日（金）14:50 – 16:20 第2会場（B102）

座長：石井秀宗（名古屋大学大学院教育発達科学研究科・教育学部）

1. The Impact of LAMS Project Training on Test Development Skills of Trainees and Change in their Perceived Self-Efficacy 122
○Etenesh Mekonnen
(Mathematics and Science Improvement Center, Ministry of Education, Ethiopia)
Hidetoki Ishii
(Psychology and Human Developmental Science, Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University)
2. Quality Difference between LAMS and Conventional Mathematics Question Items in Item Difficulty and Discrimination Power on Grade Seven Students in Bahir Dar City, Ethiopian 126
○Bimerew Kerie
(Mathematics and Science Improvement Center, Ministry of Education, Ethiopia)
Hidetoki Ishii
(Psychology and Human Developmental Science, Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University)
3. エビデンスに基づいた多肢選択式問題作成ルールの策定に向けて 130
○上松 慮生 (プロメトリック株式会社)
4. MMQ 形式の問題項目の採点方法について 132
○荒井 清佳 (大学入試センター研究開発部)
宮埜 寿夫 (大学入試センター研究開発部)

企画セッション3：認知診断モデル

9月9日（金）16:30 – 18:30 第1会場（B101）

企画・司会：服部 環（法政大学）

受験者の学習改善を目的としたとき、テストの合計点もしくは1次元性を仮定した項目反応モデルに基づく特性値をフィードバックするだけでは、十分とは言えない。そのため、近年では、個々の項目に正答するために必要な知識や理解力の関係を積極的に利用して受験者の認知的な診断を行う測定モデルが注目されている。そこで、本邦において、そのような認知診断を行うモデルを運用し、また、認知的な診断を行うために有用な情報や測定技術を創出する研究に携わっている方々が最新の研究成果を発表する場を設けることに意義があると考え、本セッションを企画した。

1. 認知モデルによる誤り要因分析 134
大森 拓哉（多摩大学）
森 一将（文教大学）
2. 認知的診断のための測定論的情報を抽出する IRT 分析 136
坂本佑太郎（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）
3. IRT モデルにもとづく学力評価ルーブリックの作成手法の試み
— 小学校算数・面積学習領域を対象として — 140
佐藤 誠子（石巻専修大学）
柴山 直（東北大学）
4. 認知診断モデルによる学習診断の教育実践での利用可能性 144
鈴木 雅之（横浜国立大学）
5. 外国語学習支援に向けた認知診断テストの開発 146
孫 媛（国立情報学研究所）
島田 めぐみ（国立情報学研究所）
谷部 弘子（東京学芸大学留学生センター）

指定討論者：村木 英治（東北大学）

一般セッション7：e テスティング

9月9日（金）16:30 – 18:30 第2会場（B102）

座長：藤田 彩子（株式会社リクルートキャリア）

1. 適応型テストの回答データを用いた新作項目の項目特性値推定 …………… 150
○杉山 剛 （株式会社リクルートキャリア測定技術研究所）
仁田 光彦 （株式会社リクルートキャリア測定技術研究所）
2. 大規模 CBT 実施における標準手法
ーAsia ATP のホワイトペーパーに基づく検討ー …………… 154
○齋藤 康寛 （Asia ATP／株式会社イー・コミュニケーションズ）
3. 日本の初等中等教育における CBT 導入の意義についての考察
～理論、技術、運用の議論以外に何が必要なのか～ …………… 156
○劉 東岳 （学研ホールディングス、学研教育総合研究所）
4. 上方カメラを用いたタブレット端末におけるタッチジェスチャによる
替え玉判別 …………… 160
○中村 祐文 （成蹊大学大学院理工学研究科）
渡邊 悠二 （元成蹊大学大学院理工学研究科）
小方 博之 （成蹊大学理工学部）
5. オンライン受験における聴覚的不正行為防止を目的としたマスキング音が
存在する時の集中力への影響 …………… 162
三浦 晋矢 （成蹊大学理工学部）
窪田 瑞穂 （成蹊大学理工学部）
○張 成龍 （成蹊大学大学院理工学研究科）
小方 博之 （成蹊大学理工学部）
6. 能力検査受検にスマートフォンを使用することの影響とその要因 …………… 164
○園田 友樹 （株式会社リクルートキャリア）
藤田 彩子 （株式会社リクルートキャリア）